

【原 著】

教員志望学生の指導のあり方（４）
—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔 松原 泰通

Provision of Guidance to Students Wishing to Become Teachers (4):
Status of How the Teaching Profession Consultation Office is Being Used

Kiyoshi OGAWA , Yasumichi MATSUBARA

2012

岡山大学教師教育開発センター紀要 第2号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.2, March 2012

教員志望学生の指導のあり方 (4)

—教職相談室の利用の実態から—

小川 潔^{※1} 松原 泰通^{※2}

要旨：平成15年度に開設された教職相談室は、平成20年度から2名の教員が配置され、教職志望の学生の指導に当たっている。論作文、集団討論、面接、模擬授業など、教員採用試験に関する指導を中心に様々な相談活動を行っている。今年度は、学生の相談履歴を記録しておく電子カルテを作成した。その結果、限られた時間内で効率的な指導を行うことができたり、学生との連絡をスムーズに行うことができたりした。また、平成22年度の年間利用延べ人数が4593人になり、その内他学部生が167人であった。共にこれまでの最多の利用者となった。本年度も、教員採用試験に最終合格した学生とそれ以外の学生では、教職相談室の利用回数に大きな差が見られた。教員採用試験に最終合格した学生の教職相談室の平均利用回数は8.76回であったのに対して、1次試験のみ合格の学生の平均利用回数は7.31回であり、合格しなかった学生の平均利用回数は4.14回であった。

キーワード：教員志望学生、教職相談室、教員採用試験、面接試験、模擬授業

※1 小川 潔 (岡山大学教師教育開発センター)

※2 松原泰通 (岡山大学教師教育開発センター)

I 教職相談室の利用者数の状況

本学では、教職志望学生の支援を目的として、平成15年度から教職相談室が設置された。相談員として退職校長が特任教授として常駐しており、学校現場が抱えている教育課題、教職の魅力、教員採用試験の情報提供、教員採用試験に向けての準備や勉強の仕方、学生ボランティアの紹介、集団討論や面接指導等様々な相談活動を行っている。

平成20年度からは2名の教員が配置され、相談件数も倍増した。平成20年度以降も年々利用者が増加している。平成22年度は4593人が利用し前年度より1390人増加した。また、平成22年度には全学組織である教師教育開発センターが開設され、他学部生が教員免許を取得することができるための体制も整えられた。その関係もあり、平成22年度の他学部学生の延べ利用人数は167人であった。このように利用者が増加しているのは、年度初めの学生向けオリエンテーションで学生への周知を徹底させたこと、他の教員から学生に教職相談室を利用するように勧めてくださったこと、そして、学生の口コミで学生間における教職相談室の認知度が高まったためであると考えられる。教職相談室の利用者の推移を示したものが表1、図1、表2である。

表中の()内の数字は新規利用者を示している。

しかし、平成23年度の4月1日から11月30日までの利用者は2849人であり、平成22年度より863人減少している。これは、4月から8月までの最も利用者の多い時期において相談室利用の予約がいっぱいとなり、学生にとって相談したくても相談に乗ってもらえない日が多くあったためである。教職相談室の現在の受け入れ態勢では限界にきているのが現状である。

平成22年度の教職相談室の利用の内訳を示したものが表3である。これまでの方針を踏襲して、教員採用に関わる全ての指導の最初を論作文指導から始めているため、4月・5月の指導内容は作文添削が中心であった。その後、多くの教員採用試験で取り入れられている集団討論に関する指導や個人面接・集団面接の指導が増えた。7月下旬からは2次試験に備えて模擬授業の回数が増えていった。教員採用試験1次の結果が発表される8月や2次試験の結果が発表される10月には、進路や講師採用に関する相談も増えた。

10月以降は3年生の利用が増えるため、情報・資料提供や進路に関する相談が中心となった。また教育実習終了後、自ら教師への適性について疑問を

教員志望学生の指導のあり方（４）

持った学生が相談に訪れることも少なくなかった。

表 1 教職相談室利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17年度	104 (47)	184 (21)	168 (13)	195 (18)	267 (2)	29 (3)	81 (9)	46 (6)	33 (12)	17 (5)	31 (8)	23 (2)	1178 (146)
18年度	134 (78)	213 (23)	193 (19)	205 (13)	174 (2)	24 (0)	87 (6)	37 (9)	25 (8)	37 (7)	42 (8)	49 (11)	1220 (184)
19年度	196 (61)	230 (12)	222 (24)	222 (19)	278 (6)	21 (2)	61 (2)	30 (10)	23 (13)	31 (22)	27 (2)	36 (9)	1377 (182)
20年度	209 (96)	539 (137)	387 (17)	539 (21)	430 (7)	37 (3)	148 (19)	88 (12)	104 (43)	90 (28)	86 (13)	113 (12)	2770 (408)
21年度	305 (149)	479 (94)	496 (30)	623 (25)	421 (13)	66 (4)	176 (22)	106 (26)	99 (26)	154 (33)	152 (17)	126 (9)	3203 (448)
22年度	731 (238)	710 (52)	556 (18)	711 (14)	501 (15)	87 (4)	261 (12)	155 (17)	230 (47)	293 (43)	217 (14)	141 (3)	4593 (477)
23年度	359 (143)	596 (85)	458 (38)	505 (24)	526 (15)	99 (4)	200 (6)	106 (21)					3014 (401)

図 1 教職相談室利用者の月別比較

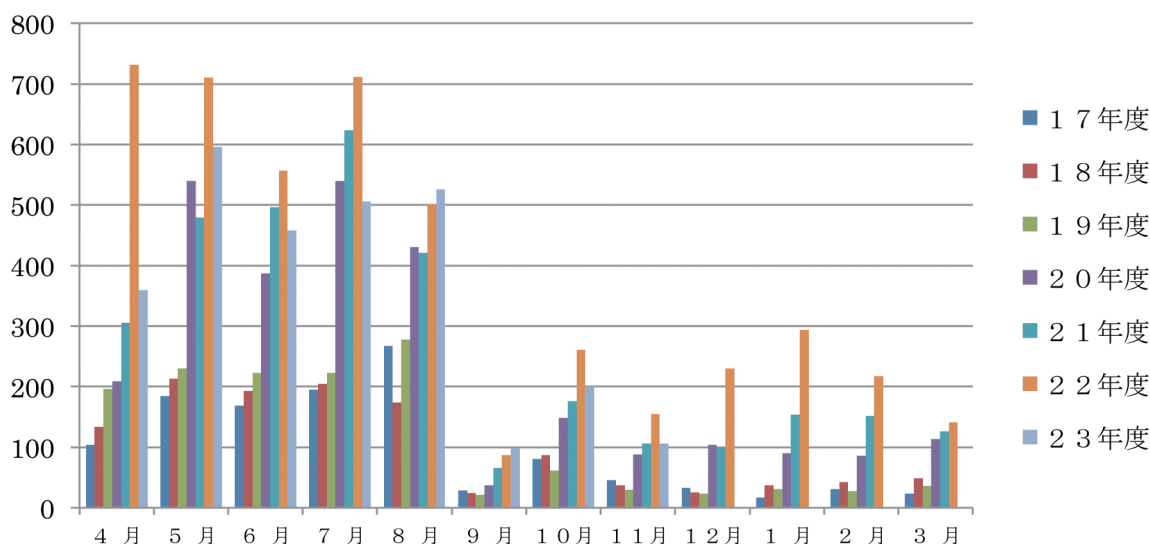


表 2 平成 22 年度教職相談室利用者数

2011年3月31日現在

	学部					大学院			別科	特専	その他											計	合計
	4年	3年	2年	1年	計	2年	1年	計			他学部他												
											卒業生		他学部										
4月	580	56	2	1	639	8	10	18	43	8	2	0	14	0	0	3	0	1	0	0	3	74	731
5月	554	10	0	0	564	21	19	40	81	3	2	0	8	0	0	4	0	5	0	1	2	106	710
6月	459	3	0	0	462	22	19	41	26	6	5	0	4	0	1	5	0	4	0	0	2	53	556
7月	608	0	0	0	608	15	17	32	31	11	6	0	7	0	0	8	0	7	0	0	1	71	711
8月	422	0	0	0	422	4	17	21	31	5	13	0	5	0	0	1	0	1	0	0	2	58	501
9月	78	3	0	0	81	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	6	87
10月	223	11	0	0	234	4	8	12	5	0	0	0	5	0	0	4	0	1	0	0	0	15	261
11月	107	40	0	0	147	1	0	1	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	7	155
12月	86	122	2	0	210	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	8	4	6	0	0	0	18	230
1月	82	194	4	0	280	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	0	0	1	9	293
2月	36	160	2	0	198	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	13	2	1	0	0	0	19	217
3月	18	106	0	0	124	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	17	141
合計	3253	705	10	1	3969	77	94	171	224	33	29	0	46	0	4	67	11	27	0	1	11	453	4593

*注：利用者数はのべ人数である。

表 3 平成 22 年度教職相談室の利用の内訳

2011年 3月31日現在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員採用試験に関すること	集団討論	159	360	404	398	36	19	74	3	31	83	9	7	1583
	個人・集団面接	126	10	40	160	126	6	23	34	0	2	1	1	529
	模擬授業	2	1	5	84	180	3	0	18	38	53	18	2	404
	作文添削	289	243	53	21	80	28	18	24	59	106	134	94	1149
	情報・資料提供等	122	71	48	44	23	10	37	51	76	41	45	33	601
小 計		698	685	550	707	445	66	152	130	204	285	207	137	4266
講師採用に関すること		6	6	2	2	1	1	3	0	4	2	4	0	31
進路に関すること		18	9	2	1	55	19	104	18	20	2	6	4	258
学校教育に関すること		9	10	2	1	0	1	2	7	2	4	0	0	38
計 (人)		731	710	556	711	501	87	261	155	230	293	217	141	4593

II 本年度の取り組み

1 改善点

今年度は、教職相談室の受付票を2種類にした。一つは「略歴」であり、最初に入室したときのみに記入するものである。もう一つは、「相談カルテ」であり、入室の都度記入するものである。図2が「略歴」であり図3が「相談カルテ」である。「略歴」には、学生番号、名前、学部・学科、出身高校、教員採用試験受験予定都道府県・校種・教科、大学時代の部活動やボランティア活動、教育実習の経験、連絡先などを色分けした用紙に学年別・学部別に記入してもらうようにした。「相談カルテ」には、学生番号、名前、

入室した日時、今日の相談したい内容などを記入してもらうようにした。そして、これらを電子カルテとしてパソコンに入力しておき、必要なときにそれらを見ながら指導したり、学生と連絡を取り合ったりすることができるようにした。そのことにより、学生のニーズをよりの確に把握して指導できるようになり、限られた時間の中でより効率的に指導を行うことができるようになった。また、学生の相談履歴を必要なときにいつでも確認できるようになり、一人一人の学生に即した指導が可能となった。

図 2

教職相談室 略歴		新規	年月日 / 更新	年月日
学生番号		名	ふりがな	
学部 (研究科)	学科 (課程)	前		
コース	専攻	部・サークル活動		
出身高校 ついて	立	ボランティアの経験		
部活動・委員会活動・取得した資格や受賞歴など	高等学校	教育実習の経験		
		附属学校園 (中学校・小学校・幼稚園・特別支援学校) ()年を担当		
		公立学校園 (中学校・小学校・幼稚園・特別支援学校) ()年を担当		
		趣味		
希望する学校種		携帯番号		
希望する教科		備考		
受験予定の都道府県				

図 3

相談回数 回目

教職相談室 相談カルテ 入室前に学生番号、名前、日時と今日の相談内容を記入しておいて下さい。

学生番号 （卒業生で学生番号を覚えていない人は、空欄にしてください。）

	名前
--	-----------

今日の相談内容 （最も当てはまるもの1つに○をつけて下さい。）

	A. 集団討論	
	B. 個人・集団面接	
1. 教員採用試験に関すること	C. 模擬授業	
	D. 作文添削	
	E. DVD視聴	
	F. 情報・資料提供等	
2. 講師採用に関すること		
3. 進路に関すること		
4. 学校教育に関すること		

入室した日時

月	日	時	分
---	---	---	---

今日相談したいこと （具体的に）

備考

2 主な指導事項及び取り組み

本年度の教職相談室における主な指導事項及び取り組みのポイントは次の通りである。

① 論作文

論作文には、学生一人一人の教育的素養がにじみ出てくるものである。試験官は、この論作文によって受験生の人柄、人間性、情熱、協調性などを推量していく。そして、教師としてやっていけるか、その誠実さや人間関係力をなどを感じとる。それだけに、受験生がその持ち味を限られた時間の中で表現できるように指導することが重要となる。その意味で、受験生自身が元気で意欲がわき出てくるように配慮するとともに、書くことによって教師としての実践力や自覚が身につくように心掛けた。

指導のポイントとしては、

- (1) 出題者の意図をつかむこと
- (2) 全体の構成を考えて書くこと
- (3) 簡潔な表現で読みやすくすること
- (4) 意欲を書き表すこと

について、学生の記述してきた論作文をもとに指導を繰り返した。

また、教員採用に関わる全ての指導を論作文の添削から始めた。これは後述の集団討論や面接などにも論作文で培った自分の考えをまとめる力が生きて働くと考えてのことである。

② 集団討論

集団討論では、試験官は、受験生の発言態度や話し合いに参加する態度、リーダーシップの取り具合、

話し合いの雰囲気や場面理解の様子などから、教育的情熱や協調性、一人一人の人間性や迫力などを推量する。そして、学校という組織体の中で、その一員としてやっていけるかどうかを見極める。その意味で、学生一人一人が意欲的に、しかも、状況に応じた自己表現ができるように導くことが重要であると考える指導した。指導のポイントとしては、

- (1) 最初の3分間で自分の考えをまとめること
- (2) 明るく誠実に考えを述べること
- (3) 他の発言者の意見に耳を傾けること
- (4) 試験官を意識しつつも、集団での話し合いの流れをくみとること

などについて、ビデオに撮影しておき、それを再生するなどして指導した。

また、入退場の動き、礼の仕方など、気持ちのよい動きになるように練習させた。これは、その他の面接試験のときにも生きてくることである。

③ 個人面接

個人面接では、試験官は、一人一人の受験生の人柄について率直に尋ねることにより、その応答の態度や内容について吟味し、合否の判定の根拠資料とする。それだけに、学生はかなりの緊張感をもって練習に臨んできた。また、学生にも、各県・市の過去間について調査させ、各自その答弁内容をまとめ、練習しておくようにさせた。相談室では、本番並みの心構えで、明るく誠実に話すように指導した。

指導のポイントとしては、

- (1) なぜこの県・市を受験したかを試験官に共感してもらえるように、各県・市のホームページなどで、教育目標・求める子ども像・まちづくりの重点などについてまとめておくこと
 - (2) (1) との関連の中で、各自のふるさとの思い出などを整理しておくこと
 - (3) 何を尋ねられても、正直に誠意を持って明るく笑顔で対応すること
 - (4) 趣味、特技を伸ばしたり、アルバイトやボランティア体験、部活動など積極的に取り組み、コミュニケーション能力を高め、人間関係づくりができるように各自の人間性を磨くこと
- などについて指導した。

④ 模擬授業

教育実習の体験しかないのが大半の学生である。中には、一度も授業の経験のない学生もいた。そのような学生には学校支援ボランティアにすぐに行くよう指導した。学生は自分が就こうとしている仕事について、大まかに理解することができ安心していった。

昔と違い、現在は、新採用教員に即戦力となることが期待されている。それだけに、明るくしっかりとした授業態度が求められる。その意味で、自信を持ってできる授業から練習を始めるように指導した。実習経験のある学生には、附属小・中で一度実践した指導案で、そのときのことを思い出させながら練習させた。学生同士で子ども役になり、よい協力関係の中で取り組んでいた。

指導のポイントとしては、

- (1) 教語、教態の基本
 - (2) 導入の雰囲気づくり
 - (3) 板書計画のたて方
 - (4) 子どもへの語りかけの仕方や子どもの発言の受け止め方
- などについて指導した。ここはもう一歩と感じたところについては、少し示範も試みた。

⑤ ロールプレイングや場面指導

養護教諭を目指す学生には、保健室の場面を想定させ、学生同士で教師役、子ども役に代わりあってなり、批評・反省を繰り返した。また、生徒指導上困難な状況が考えられる都道府県においては、過去間にも生徒指導の困難な場面の対応力が試される内容が多いので、その練習を繰り返した。

指導のポイントとしては、

- (1) どのような場面が提示されても、即時対応を迫られるため、各自のベースとなる教育観、教育哲学、児

- 童観をもっていないと迫力が出てこないこと
 - (2) 教師（自分）の都合のためでなく、子どものための実践であること
 - (3) 一人だけで解決しようとせず、学校という組織体の一員として対応していくこと。
- したがって、誰と協力して対応すべきかの判断をすること
- (4) それぞれの場面の対応の仕方に正解はないということ。それぞれの場面に応じて粘り強く子どもに関わっていくということが大切であるということ

⑥ 教師力養成講座のビデオ視聴

平成21年度から開講している教師力養成講座の校長先生の話のビデオを撮っておき、それを5・6人のグループで視聴させた。そうすることにより、現在学校現場が抱えている様々な現代的な課題に対して、学校現場では具体的にどのような問題が起きているのか、それに対してどのような考え方で対応しているのか、そして、具体的にどのような対応をしているのかについての生の話を聞かせた。その後、自分が教師としてそのような場面に出会ったらどのように対応するかという自分の考えを3分間でまとめさせ、グループで話し合わせた。これらの指導を行うことにより、現在学校現場が抱えている教育課題やこれからの教育を進めていく上で大切にしなければならないことなどについての自分なりの考えや対応方法を身につけさせるようにした。

以上のような指導意図をもって、それぞれについて指導してきた。

Ⅲ 教員採用試験の合否と教職相談室の利用回数

教職相談室を利用した学生とそうでない学生の教員採用試験における合否の結果について比較する。

1 分析の対象

① 分析対象者及び期間

本年度の教育学部及び教育学研究科の卒業予定者462名（学部生315名、大学院生95名、養護教諭特別別科40名、特別支援教育専攻12名）の内では、休学・留学・9月卒業・現職教員の学生56名と平成23年度教員採用試験合格者9名と受験したかどうか分からない学生及び結果について報告がなかった141名を除いた256名。それと、大学院1年生で受験した11名、他学部で受験した19名、既に卒業していて今年度受験した7名の合計293名を分析の対象とした。

教職相談室の利用回数については、平成23年4

月１日から平成２３年１１月３０日までの期間を分析の対象とした。

② 分類

２９３名の内、教員採用試験に最終的に合格した１６２名を「２次合格」群、１次試験に合格したが２次以降の試験には合格しなかった５２名を「１次合格」群、１次試験に合格しなかった７９名を「不合格」群と分類した。なお、複数の地域で受験した学生については、最も結果の良かったものをその学生の最終結果として採用した。各群に分類された学生の教職相談室の利用回数を示したものが表４及び図４である。

図４ 教職相談室の利用回数と教員採用試験の合否

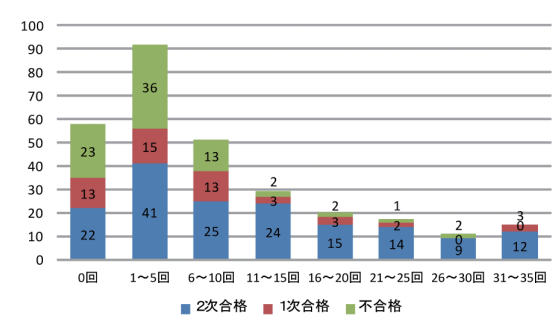


表４ 教員採用試験の合否と教職相談室の利用回数等

教職相談室の平均利用	教職相談室利用回数ごとの人数								計(人)
	0回	1~5回	6~10回	11~15回	16~20回	21~25回	26~30回	31回以上	
2次合格	11.48	22(13.6%)	41(25.3%)	25(15.4%)	24(14.8%)	15(9.3%)	14(8.6%)	9(5.5%)	162
1次合格	7.31	13(25.0%)	15(28.8%)	13(25.0%)	3(5.8%)	3(5.8%)	2(3.8%)	0(0.0%)	52
不合格	4.14	23(29.1%)	36(45.6%)	13(16.5%)	2(2.5%)	2(2.5%)	1(1.3%)	2(2.5%)	79
全体	8.76	58(19.8%)	92(31.4%)	51(17.4%)	29(9.9%)	20(6.8%)	17(5.8%)	11(3.8%)	293

2 教員採用試験の合否と利用回数

一人あたりの教職相談室の平均利用回数は、２次合格群は11.48回、１次合格群は7.31回、不合格群は4.14回、全体で8.76回であった。昨年度と比較すると、２次合格群は5.08回の減少、１次合格群も2.05回の減少、不合格群は0.11回の上昇であった。不合格群は少しの上昇であるが、２次合格群と１次合格群は大きく減少している。これは、４月から８月までの教職相談室の利用者が最も多い時期、相談室を利用したくても利用できない学生が、自分たちでグループをつくって空いた教室などを使って練習したためであると思われる。

本年度の各群の利用回数を比較すると、２次合格群と１次合格群では約1.6倍の差があり、１次合格群と不合格群では約1.8倍の差があり、２次合格群と不合格群では約2.8倍の差があった。

利用回数ごとの人数をみると、不合格群では1~5回が最も多く全体の45.6%であり、0回と1~5回の利用者が全体の74.7%であった。１次合格群でも1~5回が最も多く全体の28.8%であり、0回と1~5回の利用者が全体の53.8%であった。このことから、２次合格に至らなかった学生は、２次合格群の学生に比べて教職相談室の利用回数が少なかったといえ

る。また、２次合格群とそれ以外の群では、11回以上の利用者に違いが見られた。２次合格群では、11回以上の利用者が75人(45.6%)であるのに対して、１次合格群では11人(21.2%)、不合格群では7人(8.8%)であった。このことから、今後、教職相談室の利用を5回以下にするのではなく、できるだけ6回以上にすることを学生に勧めるとともに、11回以上利用すると合格率が大きく上昇することも伝えていきたい。

IV 今後の展望と課題

平成２２年度の教職相談室のべ利用人数が4593人であった。昨年度を881人上回っている。また、他学部学生の利用者も167人であった。このように多くの学生が利用してくれるようになったことは大変ありがたいことである。これは、各講座の教員が相談室の利用を勧めてくださったことや学生の口コミで相談室の認知度が上がったことによるものと思われる。しかし、平成２３年度の４月１日から１１月３０日までの延べ利用人数は2849人であり、平成２２年度を863人下回っている。これは、教職相談室の利用が最も多い４月から８月ま

での時期に、相談室を利用したくても利用できない学生が他の空き教室などを利用してグループで集団討論や模擬授業などの練習をしたり、お互いの論作文を読み合っただけの気になったことを教え合ったりするようになってきているためであると思われる。教職相談室を利用したいという学生のニーズに応えるために、これまでも水曜日の午後にも部屋を明けたりして開室時間を延長して対応してきたが、これからでもできるだけの方策を探りながら学生のニーズに応じていきたいと考えている。

本年度の教育学部と教育学研究科の卒業予定者462人の内、休学・留学・9月卒業・現職教員・未受験者の153人を除く303人中で、教職相談室を利用した学生は227人(73.5%)であり、1回も利用していない学生は82人(26.5%)であった。前年度と比較すると、利用した学生の人数は18人減少したが、割合は7.8%上昇している。1回も利用していない学生の人数は46人減少し、割合も7.8%減少している。教員採用試験を受験しようと思っている学生の73.5%が教職相談室に行ってみようと思ってくれていることはありがたいことである。

教職相談室に初めて来た学生の多くが、「教職相談室のドアをノックするのに勇気がある」と語る。できるだけ多くの学生に来てもらいたいと思っている私たちとしては意外であり驚きであったが、学生としては、「校長を退職した大先輩の助言を得に行くのはなかなか行きづらい」と感じているのが現実のようである。そこで、12月に開催される2年生や3年生を対象とした教職ガイダンスや年度当初に開催されるオリエンテーションの場で、学生が気楽に相談に来れるような働きかけを心掛けたいと考えている。また、一度相談に来た学生に、「また来たい」「今度は友達も誘って来よう」と思ってもらえるような支援も心掛けたいと考えている。更に、教職相談室の指導は論作文の指導から始めるが、自分の考えをまだ十分には持っていない学生にとって様々な教育課題に対して論文を書くということは大きな困難をとまなうものである。この段階で挫折してしまう学生が多くいるのも現実である。そこで、論作文を持ってきた学生に対して、よいところをしっかりと認めるとともに、このように書くと更によくなるということを具体的に示して、学生が、「なるほど、このように書くと更によくなるのか」「論文だけでなく、面接でもこのように答えるとよいのか」「このようなことが書けるようになるためにはボランティアの経験

が必要だな」「次のテーマでまた書いてみよう」と意欲を持って論作文に取り組むことができるような指導に心掛けていきたいと考えている。

利用回数ごとの教採合格結果を示したものが表5である。教員採用試験合格者の相談室平均利用回数は8.76回であるが、利用回数ごとの合格者数と不合格者数を比較してみると、利用回数が0～9回では概ね不合格者が合格者を上回っているが、10回以上では合格者が不合格者を上回っている。13回以上では、81%が2次合格し、13%が1次合格している。今後まずは、論作文の指導やDVDの視聴で10回以上の利用を働きかけていきたい。それを4月まで続け、

表5 教職相談室の利用回数と教採合格結果

利用回数	2次合格者数	1次合格者数	不合格者数
0	22	13	23
1	9	8	13
2	9	1	7
3	9	3	7
4	6	3	7
5	8		2
6	4	5	2
7	10	1	2
8	6	1	4
9	1	5	4
10	4	1	1
11	4		1
12	3		1
13	4	1	
14	6	1	
15	7	1	
16	5	1	
17			1
18	3	2	1
19	6		
20	1		
21	4		
22	3		
23	1		
24	3		
25	3	2	1
26	1		1
27	3		
28	1		1
29	2		
30	2		
31	1		
32	2		
33	3		
34		1	
35	2	1	
36	1	1	
37	1		
38			
39			
40	1		
41			
42			
43	1		
合計人数	162	52	79
平均回数	11.48	7.31	4.14
全体合計人数	293		
全体平均回数	8.76		

5月の連休明けから集団討論や面接などの指導を行い、試験実施日までに13回以上の利用を実現するように働きかけていきたい。

9月は年間を通して一番利用者の少ない時期であるが、10月に入ると利用者が倍増する。これは、教育実習前後の3年生が教員採用試験に向けての準備のために来室するようになるためである。このような学生に対して、

- (1) 毎日リズムを決めて筆記試験に向けて勉強すること
- (2) 学校支援ボランティアをすること
- (3) 週1回ぐらいのペースで論作文を書くこと

の3点について指導している。特に論作文は、採用試験での有無にかかわらずこの時期から書くことを勧めている。それは、自分なりの教育観や教師観を形成する上で有効であるとともに、集団討論や面接などの対策としても生きて働く力となるからである。さらに、教師としての実践力や自覚も身につくからである。利用回数が0～9回ぐらいの学生に対して、教師力養成講座のDVD視聴も織り交ぜながら、「相談室に来て良かった」「また来よう」「今度来るときは仲間を連れてこよう」と思ってもらえるような指導や対応を今後もしていきたいと考えている。

Title :

Provision of guidance to students wishing to become teachers (4):

Status of how the Teaching Profession Consultation Office is being used

Kiyoshi Ogawa and Yasumichi Matsubara

(Center for Teacher Education and Development, Okayama University)

Keywords: students wishing to become teachers, Teaching Profession Consultation Office, teaching staff examination, interview, mock classes

Abstract:

The Teaching Profession Consultation Office was established in 2003 school year and has staffed by 2 teachers to help the students wishing to become teachers since 2008. Our various kinds of guidance about the teaching staff examination include helping students with essays, group discussions, group interviews, individual interviews and mock classes. Computerized clinical record system was organized this school year so that we can give an efficient consultation for a limited time and get in contact with the students easily. According to last school year 2010 statistics, of a total of 4,593 students who visited the office, 167 were the students of the departments other than faculty of education. This is the largest number of the students who visited the office in a year. There was a great difference in the frequency of the visit between the students who had passed the teaching staff examination and those who had not. The average frequency of the students who has passed the exam is 8.76. On the other hand, that of those who has passed only the first stage exam is 7.31 and that of those who has not passed is 4.14.
